

2025年11月13日  
株式会社ニトリホールディングス

## 2026年3月期 中間期 決算説明会 質疑応答要旨

※決算説明会の主な質疑応答の要旨となります。

内容はご理解いただきやすいよう、部分的に加筆・修正をしております。

### 【第1部 決算説明及びアナリスト・機関投資家向け質問会】

Q) 経営体制の変更とそれに伴う業績影響を教えてください。(海外事業管掌の取締役で9月末で退任した)武田氏がリーダーシップをとっていた海外事業の今後の経営体制はどうなるのか。国内経営体制は、似鳥会長が商品開発本部長で、それ以外の店舗運営やマーケティングは永井氏が担当されているのか。今、最も経営執行において注力している点は何か。

A) (白井) 武田の辞任は任期途中で非常に残念。退職は一身上の都合であり、事前より相談を受けていた。今後も顧問として継続して活動し、当社と色々な接点は持つ。海外体制は、似鳥会長と私が直接見ていく。また、将来のニトリを背負う執行役員が各国で責任者を担っており、業績も全体的には改善が進んでいる。武田辞任により海外展開が遅れることはない。国内は似鳥会長が先頭に立ってやって改善改革をすすめる。店舗、EC等の営業面は永井が担当する。従前と変わらない。

Q) 今、経営者として重点を置いているところを教えてください。

A) (永井) 客数を戻すこと。これに尽きる。

(似鳥) 現在は客数減少への対策として、新商品の開発に特に注力している。現状売場において18%程の新商品の比率を30%、できれば35%くらいまでにできれば、お客様から見ても売場はガラッと変わり、生き活きとして魅力があるように見える。商品部組織を改編し、バイヤーとマーチャンダイザーの区別をなくしマーチャンダイザーに一本化することで、商品開発に集中できる集団にする。原価低減による荒利確保だけでなく、魅力のある新商品開発の質と量、スピードを上げる。宣伝方法についても色々変える。夏から自分が商品開発を率いるようになったが、来年には軌道に乗せていきたい。商品づくりという原点に立ち戻って、商品部を生まれ変わらせたい。

Q) 来期の為替予約について教えてください。

A) (木村) 今のところ来期の予約はしていない。今期分の予約だけだ(147円65銭)

Q) 新商品の収益性を教えてほしい。上期で原価低減の効果は出てきているが、新商品が増えると、原価低減効果は下期も期待できるのか。

A) (白井) 現在開発している商品は、円ドル155円を想定した原価構造で開発している。売価も競争力があるようにしている。最短3ヶ月で入ってくる商品はそのような前提。

Q) 商品面について、商品のカテゴリーで、どのあたりが変わっていくのか。

A) (似鳥) 新商品開発は全カテゴリーでスピードを上げ実施していく。調査したら低価格帯の家具が特にECでシェアを取られていた。当社はECにおける家具のシェアが低い。ここに手を打つべく、他社対抗できる商品の開発を進めている。低価格でお手頃な商品があることをしっかりと訴求するため、開発した商品はECのみならず店舗でも展開・紹介し、TVCMも1~2月に露出していく。そこからシェアを獲得していきたい。

## 【第2部 メディア向け質問会】

Q) 円安による消費者への影響は。物価上昇して消費者が買い控えしている等あるか。

A) (似鳥) 耐久消費財は、壊れないので我慢して使おうというのはどの家庭でも起きている。わが社は安い価格帯の商品が少ないこともあり、重点的にディスカウント消費に力を入れないと駄目だと思っている。

Q) 営業利益は通期増益を見込んでいる。目標達成に向けて最も重視するところはどこか。下期の業績改善に向けて何が重要になるか。

A) (永井) まずは国内の客数対策、売上回復が最重要。原動力が新商品。その部分の原価対策なども進める。新商品には魅力的な価格をつけて、しっかり荒利を稼ぎたい。業績へのインパクトという意味では、海外よりも国内の客数回復が重要。少しでも今期の数字を変えたい。商品開発に尽きる。

(似鳥) 海外は今年は収益性を重視し、特に不動産不況による影響の大きい中国大陸においては不採算店舗の閉店、店舗面積の縮小を進めている。来年度以降黒字化する計画である。その他、アセアンでも国・地域によりもう少しで黒字化できそうなところもある。どの地域も20店舗ほどに増えると規模の経済で収益性がついてくる。できれば、海外だけで年間100店舗くらいは出店したい。国内においては、一番は新商品が早く入荷して売れる状態にしていくこと。4Qに数字変わってくると思う。増収増益にした

い。3Qで多少持ち直して、4Qで既存店プラスにしたい。

Q) 御社は3.5人に1人が応募するような人気企業。似鳥会長のもとでは、猛烈に働かないといけないのか、ワークライフバランスはどう考えているか。

A) (似鳥) 女性が45%、男性が55%。前は結婚出産で退職する人も多かった。男性も育児休暇を6か月取得する人が多い。マイエリア制度も導入しており、働きやすくなってきていると思う。